

名誉会員 小林宏治氏を偲ぶ

水 野 幸 男

日本電気(株)特別顧問

本会第10代会長、名誉会員であり、日本電気株式会社名誉会長相談役の小林宏治氏は、去る平成8年11月30日午前11時半89歳の生涯を閉じられました。

小林氏は明治40年2月17日、山梨県に生まれ、昭和4年に東京帝国大学を卒業後、直ちに日本電気に入社されました。当時の日本電気は米国ウエスタン・エレクトリック社の技術に頼っていましたが、氏はこれを改革しようとの心意気で仕事にあたり、常に独自技術の開発に努められました。たとえば、通信省の松前重義氏の画期的なアイデアに基づき、東京～満州国奉天間3000キロにおよぶ世界最長の無装荷ケーブル搬送電話回線の開発に挑み、昭和14年に完成させたことは有名です。

コンピュータとの出会いは、昭和29年頃、濾波器の設計のためにパラメトロンコンピュータを社内で自作したのがきっかけです。続いてトランジスタコンピュータを開発し、昭和34年のオートマス展示会に出展されました。氏の先見性については、いくつもの逸話が残っていますが、ソフトウェアの重要性について、早くも昭和35年頃から認識しておられました。

コンピュータの事業化にあたっては、当時社内ではIBM機との互換性をとるか否かの議論がありましたが、氏はIBM非互換路線をとることを意思決定されました。IBMの後を追いかけることを戒め、独自技術にこだわられたのです。

昭和39年に日本電気の社長に就任され、経営刷新に乗り出されました。点から面へのトップ構造、コマの理論、事業部制の改革、ZD運動、地方分身会社計画、クオリティ作戦など、矢継ぎ早に実行されました。

小林氏は昭和41年に知識産業のコンセプトを打ち出されていますが、これは情報と知識の重要性を予見されたからであります。そして、昭和43年には「コ

ンピュータ時代への挑戦」を著し、コンピュータを道具として使いこなす時代がくることに備えての経営上の課題を説いておられます。

昭和52年のIntelcom 77において、通信とコンピュータの融合、つまりC&Cの概念を打ち出されたことはあまりにも有名ですが、社内体制の整備とともに、世界中にこのC&Cの概念を説いて回り、C&Cの教祖とさえいわれました。この概念は日本電気のビジョン

となり、今日のマルチメディア時代を切り開く基礎を作りました。

小林氏は昭和54年5月から2年間、本会の会長を務められ、同57年に名誉会員に推挙されました。

氏を語るとき忘れてならないのは、ローマクラブと自動通訳電話です。昭和44年の国際産業会議に出席されたおり、オリベッティ社のベッチェイ氏に会われ、孫達の代の地球を考えるべきだとの熱心な誘いに賛同して、ローマクラブに入会されました。このローマクラブは、「成長の限界」というレポートを発表したことで有名です。一方、自動通訳電話は小林氏の夢でし

た。昭和58年のTelecom 83の基調講演で、この話をされるとともに、自動通訳電話の研究モデルを展示し、皆にイメージを知らせました。この話をされるときはいつも、世界中の人々がこの通訳電話で理解しあえるようになれば、戦争のない平和な世の中になるのだとおっしゃっていました。

小林氏は日本電気の中興の祖といわれていますが、同時に技術の先見性に富み、国際的視野で判断し、人類愛に満ちた大先輩でした。仕事のときは厳しい顔も見せられましたが、常に慈愛を込めた眼で見守ってくださいました。小林氏が身をもって示された挑戦の精神は、皆が引き継いでくれるものと信じています。安らかに眠りください。



御 略 歴

明治 40 年 2 月 17 日	山梨県生まれ
昭和 4 年 3 月	東京帝国大学工学部電気工学科卒業
4 年 4 月	日本電気株式会社に入社
14 年 3 月	東京帝国大学から工学博士の学位を授与される
14 年 6 月	東京～奉天間無装荷ケーブル回線完成
24 年 7 月	日本電気取締役
31 年 7 月	同社常務取締役
36 年 4 月	同社専務取締役
37 年 11 月	同社副社長
39 年 11 月	同社社長
41 年 4 月	電気四学会にて知識産業の概念を発表
51 年 6 月	日本電気取締役会長
52 年 10 月	Intelcom 77 にて C&C の概念を発表
53 年 5 月	電子工業振興協会にて C&C チャートを発表
58 年 10 月	Telecom 83 にて自動通話電話の概念発表
60 年 3 月	C&C 振興財団設立
63 年 5 月	日本電気取締役名誉会長
平成 2 年 6 月	同社名誉会長相談役
8 年 11 月 30 日	逝去 (89 歳)
昭和 39 年 5 月～ 40 年 5 月	電気通信学会 (現: 電子情報通信学会) 会長
41 年 5 月～ 42 年 5 月	テレビジョン学会 (現: 映像情報メディア学会) 会長
41 年 6 月～ 平成 2 年 7 月	経団連常任理事
45 年 1 月～	ローマクラブ会員
47 年 5 月～	電子情報通信学会名誉員
48 年 5 月～	テレビジョン学会 (現: 映像情報メディア学会) 名誉会員
52 年 4 月～	NAE Foreign Associate
54 年 5 月～ 56 年 5 月	情報処理学会会長
55 年 7 月～ 平成 6 年 3 月	光産業技術振興協会会長
57 年 5 月～	情報処理学会名誉会員
62 年 4 月～ 平成元年 3 月	日本工学アカデミー会長

主な著書

昭和 43 年 10 月	「コンピュータ時代への挑戦」
46 年 6 月	「70 年代の経営課題」
51 年 2 月	「クオリティ指向の経営」
55 年 11 月	「C&C は日本の知恵」
57 年 5 月	「C&C とソフトウェア」
60 年 5 月	「C&C モダン・コミュニケーション」
61 年 1 月	「Computers and Communications: A Vision of NEC」
63 年 3 月	「小林宏治 私の履歴書」
平成 元年 5 月	「Rising to the Challenge」
元年 5 月	「構想と決断」

受賞 昭和 32 年 10 月	紫綬褒章受章
39 年 10 月	藍綬褒章受章
52 年 4 月	IEEE からフレデリック・フィリップ賞受賞
53 年 4 月	勲一等瑞宝章受章
59 年 5 月	IEEE からファウンダーズ賞受賞
63 年 11 月	勲一等旭日大綬章受章
平成 8 年 11 月 30 日	正三位に叙せられる